

# 二級河川梅川水系河川整備基本方針

松薫る 緑豊かな ふる郷に めぐみの流れ いつまでも  
～ 明日に飛躍する活力の源として

平成20年2月

福 島 県

## 目 次

	ページ
第1章 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	1
1．梅川流域の現状 -----	1
2．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	3
(1) 河川の洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 -----	3
(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 -----	3
(3) 河川環境の整備と保全に関する事項 -----	4
第2章 河川の整備の基本となるべき事項 -----	5
1．基本高水並びにその河道及び洪水調節ダムへの配分に関する事項 -----	5
2．主要な地点における計画高水流量に関する事項 -----	5
3．主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項 --	6
4．主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量 に関する事項 ---	6

(参考図): 梅川水系図

## 第1章 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### 1. 梅川流域の現状

#### (1) 流域

梅川は、宇多川右岸の相馬市今田地区より水田地帯を東流し、中央排水路等の農業排水路を合わせ、相馬市新田地区において日本百景の一つであり風光明媚な地として知られる松川浦へ注ぐ、流域面積8.09 k m<sup>2</sup>、法河川延長4.5kmの二級河川である。その流域は相馬市の1市からなり、流域人口は約3千人である。

本水系は太平洋型気候で、降雨は梅雨期・台風期に多い。年平均降水量は約1,300mm、年平均気温は12.2 である。

#### (2) 社会環境

流域の土地利用は、梅川沿川の低平地の大部分が水田として利用され、そこに小規模な集落が散在している。また、流域南部の低い丘陵地帯は山林となっている。

流域の産業は、沿川に広がる水田を利用した農業が主要産業となっており、近年においても圃場整備事業等の基盤整備により、農業経営の合理化や地域農業の育成が図られてきた。一方、相馬市市街地の拡大に伴い、流域を横断する国道6号沿いに郊外型の大型ショッピングセンターが出店するなど、第二次、第三次産業が拡大している。

流域の主要交通網としては、国道6号、JR常磐線が南北に走り、浜通り地方の市町村を結ぶ主要な幹線として機能している。また、国道6号バイパスや国道115号、常磐自動車道の『富岡IC』から『相馬IC(仮)』の区間が建設中であるなど、流域には浜通り地方の発展を担う交通幹線が集中しており、本水系の治水の意義は極めて大きいものといえる。

#### (3) 治水事業

梅川は、流下能力が極めて小さいため、古くより出水の度に河川氾濫が繰り返されてきた。昭和61年8月の台風10号及び豪雨による出水被害は、浸水家屋130戸、農地浸水84ha、一般資産被害額約6,200万円に上った。

このような状況から、程田橋地点における計画高水流量を60m<sup>3</sup>/sと定め、平成元年度より、河口～中央排水路合流点付近までの築堤、掘削及び護岸工などの河川改修を実施し、治水安全度の向上を図ってきた。現在、JR常磐線までの治水安全度向上を目指し施工中である。

#### (4) 河川の利用

梅川においては、本川掛かりの水利はなく、流域のかんがい用水は、溜池及び松ヶ房ダムからの導水により行われている。

河川の利用としては、特に公園等の環境整備が行われている場所はないが、散策等の利用がみられる。

#### (5) 河川環境

梅川の法指定区間の上流域（ＪＲ常磐線より上流）は、相馬市今田地区の水田地帯を流下しており、河道は農業用排水路に近い形態をなしている。

中流域（中央排水路合流点～ＪＲ常磐線）は、国道６号周辺の集落部を流れ、河道内は草本群落に覆われている。抽水植物が繁茂した水際には貴重種であるギバチが、砂礫河床の場にはシマドジョウやトウヨシノボリ等が生息している。また、周辺の水田地帯はアオサギなど水鳥の良好な生息場所となっている。

下流域（河口～中央排水路合流点）は、圃場整備された水田地帯を流れており、河道は改修により川幅が広く、河道内にはヨシ類等の大型抽水植物が繁茂するなど、多様な環境を形成している。また、水面や周辺の水田地帯は、カイツブリ、イソシギ、ダイサギなどの水鳥の良好な生息環境となっている。松川浦への流入付近は、川幅いっぱい水面が広がり、水田地帯と松川浦とが一体となった広々とした景観を呈するとともに、ボラやハゼ類といった海水性の魚類も生息し、多様な生物相を形成する場となっている。

河口部は、日本百景の一つである松川浦が広がる。

## 2. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

梅川水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、河川工事の現状、水害発生状況、河川の利用の現況並びに河川環境の保全を考慮し、関連地域の社会経済情勢の発展に対応するよう、「新福島県長期総合計画」等との整合を図り、相馬地域開発計画等の関連事業、関連工事に十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、次のように工事を実施するものとする。

梅川は、沿川に広がる水田地帯や相馬市市街地の一部を流下する河川であることから、安全で安心できる地域をつくる「治水」、水利用の適正な管理を行う「利水」、多様な動植物の生育・生息環境の保全及び河川利用の場を提供する「河川環境」のバランスのとれた河川整備を進めていくものとする。その中でも、中流域の市街地部は、出水による影響が大きいため、治水の整備を促進する。

また、関連計画、関連事業との調整を図り、より地域に密着した河川になるよう、地域住民、ボランティア団体及び関係機関と協働し河川整備を進めていくものとする。

### (1) 河川の洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

本水系は、流域の規模、社会経済的重要性並びに地域バランスを考慮して決定される計画規模の洪水を安全に流下できるよう、治水施設の整備を図る。

また、計画規模を上回る洪水に対しては、洪水被害を最小限に抑えるため、雨量・水位等の情報収集と提供、ハザードマップの作成や地域の水防活動などの体制強化を支援する。

### (2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

梅川においては、これまで渇水による問題が生じた記録もなく、また、流域のかんがい、溜池および松ヶ房ダムからの導水により行われているため、流水の正常な機能を維持するために必要な流量は設定しないこととする。

しかし、現在、河川流況や水質、また動植物の生息・生育状況が十分把握できていないことから、今後これらの調査は継続実施する。

また、河川パトロール等により河川状況を把握するとともに、流域住民への水質保全などの啓発等に努める。

### (3) 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、市街化が進展しながらもギバチなどの貴重種も生息し、カイツブリやイソシギなどの鳥類等が梅川を採餌場所として利用しているため、水際部のヨシ類等の草本類を保全し、ここを利用する魚類や鳥類の生息・採餌環境を確保する。

また、相馬市市街地の一部を流れる河川として、地域に密着した水辺空間の確保と日本百景である松川浦と調和のとれた河川景観の保全に努める。

## 第2章 河川の整備の基本となるべき事項

### 1. 基本高水並びにその河道及び洪水調節ダムへの配分に関する事項

基本高水流量は、流域の規模、社会経済的重要性並びに地域バランスを考慮し、基準地点程田橋において $60\text{m}^3/\text{s}$ とする。

河道への配分流量は、洪水調節施設による調節を行わないため、基本高水流量と同量とする。

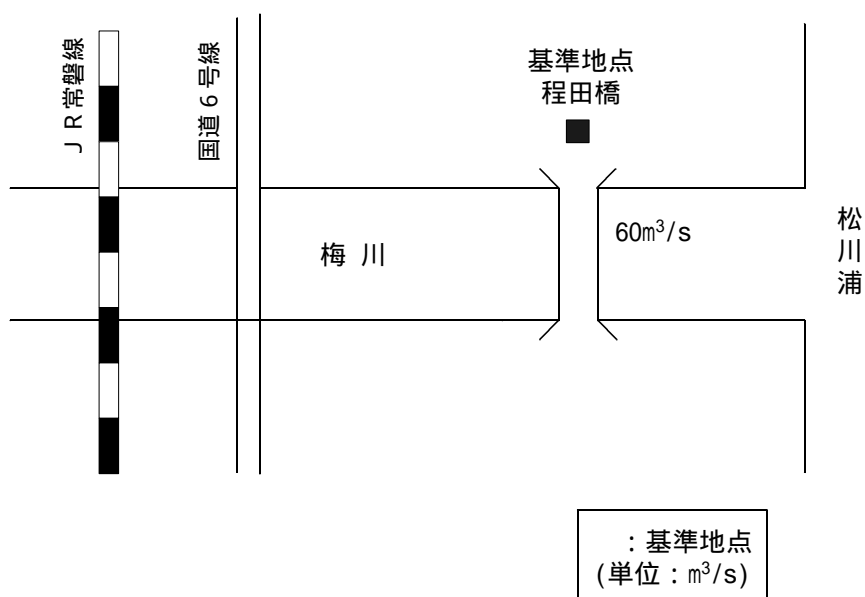
基本高水ピーク流量等の一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
梅川	程田橋	60	-	60

単位： $\text{m}^3/\text{s}$

### 2. 主要な地点における計画高水流量に関する事項

梅川における計画高水流量は程田橋地点で $60\text{m}^3/\text{s}$ とする。



梅川計画高水流量配分図

### 3. 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位、河道幅は次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位、河道幅一覧表

河川名	地点名	河口又は合流点からの距離 (km)	計画高水位 T.P(m)	河道幅 (m)
梅川	程田橋	2.20	2.97	31.4

注) T.P : 東京湾中等潮位

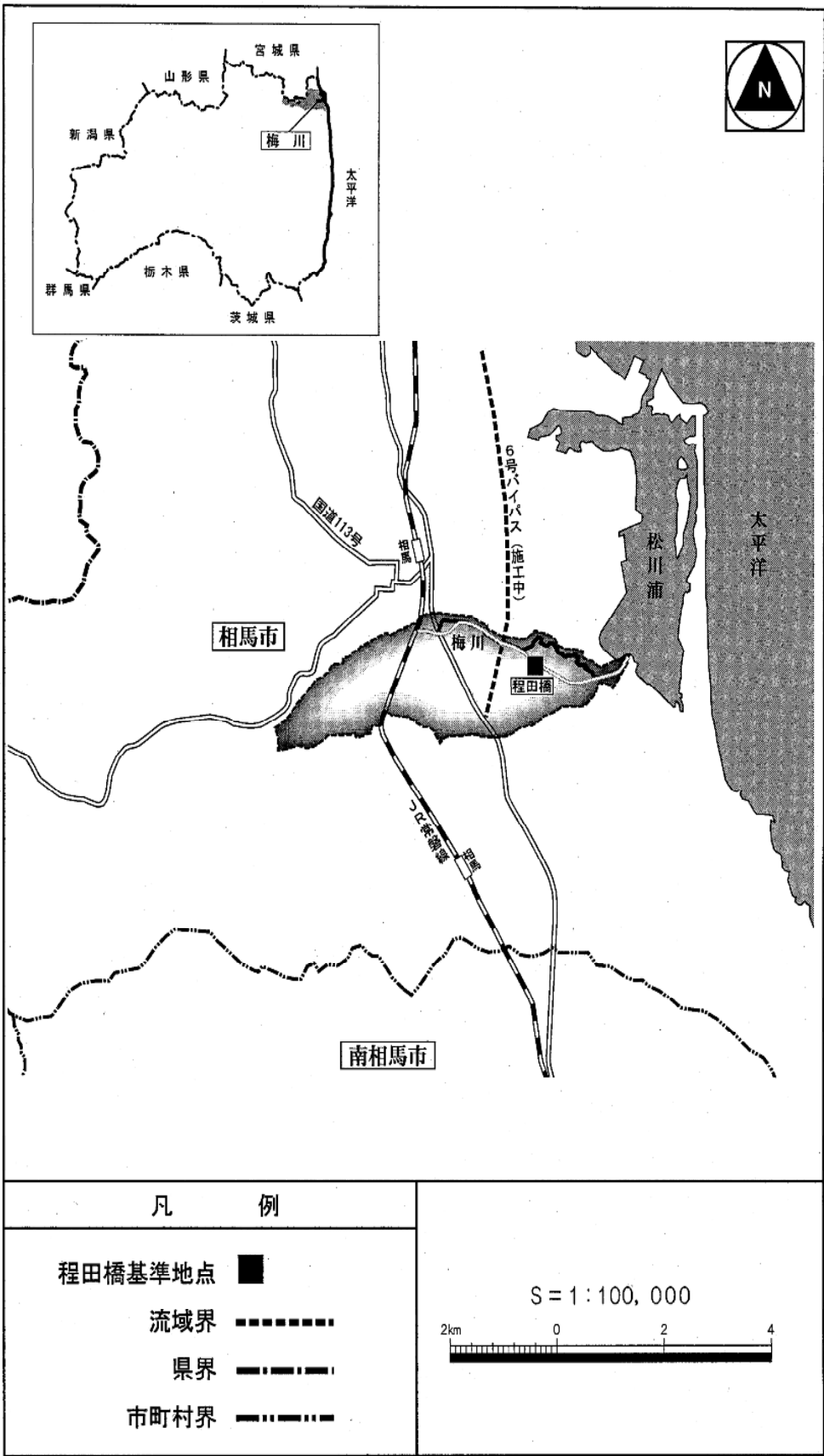
河道を整備するにあたっては、上記の計画高水位・河道幅を基本として、計画高水流量が安全に流下できる河道を確保するとともに、沿川の地形や土地利用・自然環境を踏まえて、周辺環境に十分配慮する。

### 4. 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

梅川水系では、渇水時の瀬切れ等の影響や流況改善の要望等がないこと、また、河川流況や水質が十分に把握されていないことから、正常流量の設定は行わないこととする。

今後、正常流量の設定を行う場合は、流況や水質等の把握に努め、「流水の占用」、「動植物の生息地又は生育地の状況」、「流水の清潔の保持」などを考慮し定めるものとする。





梅川水系概要図